

# 日本におけるサー・トマス・ブラウン書誌

河野 豊

英文学史上、サー・トマス・ブラウン (Sir Thomas Browne, 1605-82) と言えば、つとに名作家として知られている。英本国に限らず日本に於いてもその評価はそのまま通用していると思われる。ただ、英米とは異なり、日本でその作品が広く読まれてきたとは言い難い。もっとも英米に於いてさえ、現在ではさほど読まれていないかもしれないが、近年になってもブラウンに関する新しい選集や研究書が出されているということは、ブラウンに関心を持つ一定の読者の存在を示していると言ってもよいだろう。

そうした彼我の差はさておき、これまでに日本で発表されたブラウン関連の記述を、筆者の目に留まった限りにおいて以下に記し、今後の研究の一助としたい。『書誌』と銘打ったものの、不十分な点が多々あると思われる。御教示頂ければ幸いである。

## 1 英米での状況

英米には既に定評のある書誌がいくつか存在する。それらは次のものである。

- (1) Keynes, Geoffrey. *A Bibliography of Sir Thomas Browne, Kt., M.D.*, Cambridge: Cambridge University Press, 1924.
- (2) Keynes, Geoffrey, Kt. M.D. *A Bibliography of Sir Thomas Browne, Kt., M.D.*, revised and augmented. Oxford: Clarendon Press, 1968. (1)の増補改訂版
- (3) Donovan, Dennis, Magaretha G. Hartley Herman and Anne E. Imbrie. *Sir Thomas Browne and Robert Burton: a reference guide*. Boston: G. K. Hall & Co., 1981.

これらはそれぞれ英米の書誌学者の労作であって、その学問的意義は大である。日本におけるおそらく最初の本格的翻訳である24 (整理番号。下記凡例2参照) も、(2)に記載されている。しかし(2)の当該箇所にて些細な誤りがあるのは残念なことである。“vol. V”とあるのは“vol. IV”の誤りである。この機会に訂正しておきたい。

ブラウンの選集本及び研究書の巻末書誌としては、次のものが有益である。

- (4) Patrides, C. A., ed. *Sir Thomas Browne: The Major Works*. Penguin Books, 1977.
- (5) Post, Jonathan F. S. *Sir Thomas Browne*. Twayne Publishers, Inc., 1987.

## 2 日本での状況

おそらく最初にブラウンを日本に紹介したのは、東京大学で教鞭を執っていた頃の夏目漱石だと考えられる。岩波版漱石全集第16巻(1967)所収の「英文学形式論」にブラウンの名が見える。

書誌に関しては、24に付された堀大司氏による「参照書目」が、先駆的なものとして挙げられる。但し、これは、英米でのブラウンの著作集及び研究書についてのものである。「日本におけるサー・トマス・ブラウン書誌」の類は、筆者の知る限り、ない。

### 3 ブラウンの主要作品

初版タイトルを記し、参考までに、これまで見られた邦訳表記をいくつか挙げる。

*Religio Medici*, 1643. (著者未公認版は1642年刊行)

『レリギオ・メディキ』、『レリヂオ・メディシ』、『レリジオ・メディチ』、『医師の信仰』、『医師の宗教』、『ある医師の宗教』、『医家信教』、『医者宗教』

*Pseudodoxia Epidemica: or Enquiries into Very many received Tenents, and commonly presumed Truths*, 1646. (通称 *Vulgar Errors*)

『プセウドキシア・エピデミカ』、『荒唐世説』、『迷信論』、『伝染性謬見』、『謬見蔓延論』、『一般的謬説』、『俗謬論』、『俗説弁惑』

*Hydriothaphia, Urne-Buriall, or, A Discourse of the Sepulchrall Urnes lately found in Norfolk. Together with The Garden of Cyrus, or the Quincunciall, Lozenge, or Net-work Plantations of the Ancients, Artificially, Naturally, Mystically Considered. With Sundry Observations*, 1658.

*Hydriothaphia, Urne-Buriall* は『ハイドリオタフィア』、『屍灰甕埋葬』、『壺中蔵骨』、『壺葬論』、『壺葬について』

*The Garden of Cyrus* は『キュロスの園』、『キュロスの庭園』、『クロスの庭園』、『クロスの庭』、『サイラスの庭』

*Certain Miscellany Tracts*, 1683.

『雑纂』、『雑録』

*A Letter to a Friend, Upon occasion of the Death of his Intimate Friend*, 1690.

『一友人にその親友の死去の有様を報ずる書翰』、『ある友人への手紙——その親友の死に際して』

*Christian Morals*, 1716.

『キリスト教徒の道徳』、『キリスト教道徳』、『キリスト教倫理』

### 4 凡例

以下に、日本におけるブラウン関連の記述がある書目・雑誌類を掲げるが、凡例は次の通りである。

- 1 各項目は発表年代順とする。但し、初出文献を参照し得ない場合は新版を記載した。

- 2 記載の仕方は「整理番号／著者・編者・訳者／題名・掲載紙誌・単行本（発行者）、ページ／発行年」とする。発行者と発行年を敢えて別項目にしたのは、検索の便を考えてのことである。なお整理番号はここでの便宜的なものにすぎない。
- 3 学術論文や翻訳に限らず、エッセイや小説中に表われるものも収録した。
- 4 各項目下のコメントは筆者によるものである。当該項目についての補足情報を記した。
- 5 ブラウンの名のみが表われるものについても極力収録した。
- 6 英文学史の概説書、事典の類は除いた。

## 5 書誌

- | 番号 | 題名、掲載紙誌・単行本（発行者）、ページ  | 発行年  |
|----|---|------|
| 1  | 夏目漱石『三四郎』（十）、（十一）（春陽堂）、329-31, 367-68, 372-73   | 1909 |
|    | 1908（明治41）年9月1日から同年12月29日まで、『東京朝日新聞』に連載。 <i>Hydriotaphia</i> の抜粋の邦訳を含む。『漱石全集』第16巻（岩波書店、1967）所収の蔵書目録によれば、漱石はブラウンの全集を持っていた。（ <i>The Works of Sir Thomas Browne</i> . Ed. by Simon Wilkin. 3vols. London: George Bell & Sons. 1888-94. (Bohn's Standard Library).） |      |
| 2  | 南方熊楠「虎に関する史話と伝説、民俗」、「太陽」20-1  | 1914 |
|    | 後に『十二支考』として乾元社版全集第1巻及び第2巻に収録（1951）。また、平凡社版全集第1巻（1971）、東洋文庫（1972）、岩波文庫（1994）に所収。南方はたびたびブラウンに言及している。112参照。  |      |
| 3  | 岡倉由三郎編“On Dreams”、『English Essays』（研究社）、19-23, 301-8  | 1925 |
|    | “On Dreams”の執筆年代は不明。  |      |
| 4  | 竹友藻風著『エッセイとエッセイスト』（北文館）、37, 38, 115   | 1927 |
| 5  | チャールズ・ラム著平田禿木訳『エリア随筆集 上』（国民文庫刊行会）、2, 23, 63, 66, 130, 142, 194-95   | 1927 |
|    | Charles Lamb, <i>The Essays of Elia</i> (1823) の邦訳。『同 下』は1929年刊行。なお、現在最も新しい邦訳は船木裕訳『エリアのエッセイ』（平凡社、1994）であると思われる。   |      |
| 6  | 森六郎「エッセイストとしての Sir Thomas Browne」、「アルビオン」第1巻第4号（京大英文学研究会）、258-76  | 1934 |

- 7 デイ・クインシー著田部重治訳『阿片常用者の告白』(岩波書店)、70 1937
- Thomas De Quincey, *Confessions of an English Opium Eater* (1821) の邦訳。同作品の翻訳として、辻潤訳(三陽堂書店、1918)、野島秀勝訳(国書刊行会、1995)等がある。
- 8 堀大司「SIR THOMAS BROWNE について」、*「英文学研究」* 第23巻第2 (日本英文学会)、119-52 1943
- 後に加筆修正の上、改題されて、22に収録。
- 9 アーノルド・ベネット著山内義雄訳『文学趣味——その養成法——』(岩波書店)、23-24 1943
- Arnold Bennett, *The Literary Taste: How to Form It* (1909) の邦訳。「普通相当の人の自国語の古典に対する態度」の例として、その古典にブラウンを挙げる。
- 10 ウォルター・ペイター著堀大司訳注「サー・トーマス・ブラウン」、*「英語青年」* 5月号(研究社)、12-15 1946
- Walter Pater, *Appreciations* (1889) 所収の“Sir Thomas Browne”の邦訳及び注釈。1946年5月号~1948年2月号までの3年間にわたって、16回連載。
- 11 エドガ・A・ポオ著吉田健一訳『マルジナリア』(創元社)、5, 10 1948
- 訳者附記によれば、本書は始め1943年に芝書店から刊行。後に『ポオ全集3』(東京創元社、1963)に収録。
- 12 トマス・ブラウン著佐山栄太郎訳注「夢寐と覚醒」、*「英語青年」* 12月号(研究社) 1949
- Religio Medici* からの抜粋(第2部第11節、第12節の一部)。訳注者によると、タイトルは、E. M. Clark のもの。
- 13 大和資雄編注『イギリスの随筆 (Best English Essays)』(南雲堂)、ii, 4-6, 71 1952
- Christian Morals* から第2部第1節を抜粋。参照したものは第9刷(1983)で、編者前書き“AN ESSAY ON ESSAYS—by Way of Introduction—”の日付は1977年1月。

- 14 佐山栄太郎著『形而上詩の伝統——十七世紀英詩の鑑賞』（研究社出版）、2, 14, 15, 109, 190 1954
- 15 堀大司編『The Diary of Samuel Pepys』（研究社出版）、xxx, 134, 386 1954
- 16 バージル・ウィレー著武藤一雄・川田周雄訳『キリスト教と現代』（創文社）、84 1955  
 Basil Willey, *Christianity: Past and Present* (Cambridge University Press, 1952) の邦訳。
- 17 H・バターフィールド、W・L・ブラッグ他著菅井準一訳『近代科学の歩み』（岩波書店）、96-97 1956  
 Jack Lindsay(ed.), *The History of Science* (Cohen & West Ltd., 1951) の邦訳。Basil Willey の “The Touch of Cold Philosophy” を含む。
- 18 長谷川四郎「ブラウンとミルトン」、*茨城大学文理学部紀要（人文科学）7* 1957
- 19 E・M・フォースター著村上至孝・米田一彦訳「天国行の乗合馬車」、『天国行の乗合馬車・永遠の瞬間』（英宝社）、19-47 1957  
*Collected Short Stories of E. M. Forster* (Sidgwick and Jackson Ltd., 1948) からの邦訳。ブラウンが馬車の御者となって登場。なお、小池滋訳『E・M・フォースター作品集 5』（みすず書房、1996）にも所収。
- 20 村岡勇著『英詩のすがた——十七世紀英詩のイメージ』（研究社出版）、49 1958
- 21 バジル・ウィレー著深瀬基寛訳『十七世紀の思想的風土』（創文社）、7, 8, 24, 49-66, 69-73, 80-89, 105, 141, 201, 204-7, 214, 218, 286, 287, 331 1958  
 Basil Willey, *The Seventeenth Century Background: Studies in the Thought of the Age in Relation to Poetry and Religion* (Chatto & Windus, 1934) の邦訳。「第一章 サー・トマス・ブラウン」、「第四章 聖書の解釈について 一、ブラウン」を含む。
- 22 堀大司「サー トマス・ブラウン」、『スウィフト その他』（南雲堂）、3-87, 349 1959
- 23 須藤信雄「Sir Thomas Browne の宗教思想」、*明治学院論叢* 第64・65合併号、11-31 1961  
 後に同氏著『17世紀英文学における Christian Humanism』（佑学社、1971）に収録。

- 24 トマス・ブラウン著堀大司訳「医師の信仰」、『世界人生論全集第4巻』(筑摩書房)、167-304 1963

*Religio Medici* のおそらく本邦初訳。

- 25 Frank L. Huntley, "SIR THOMAS BROWNE'S MASTERPIECE: *VULGAR ERRORS*", 『上野直蔵博士還暦記念論文集』(南雲堂)、27-45 1963

Huntleyの著書、*Sir Thomas Browne: A Biographical and Critical Study* (The University of Michigan Press, 1962) の第10章を改稿したもの。

- 26 横尾定理「*Religio Medici* 論——BrowneとAnglicanism——」、『広島大学英语英文学研究』第10巻第2号、35-49 1964

- 27 加藤憲市著『英文学動物ばなし』(松柏社)、43, 71, 217 1964

- 28 堀大司「G. Keynes, ed.: *The Works of Sir Thomas Browne, etc.*」、『英文学研究』第42巻第2号、269-75 1966

上記「」内のタイトルは目次表記による。Geoffrey Keynes(ed.), *The Works of Sir Thomas Browne*, 4vols(Faber & Faber, 1964) 及びL. C. Martin(ed.), *Religio Medici and Other Works* (Oxford University Press, 1964)の書評。

- 29 ウィリアム・スタイロン著須山静夫訳『闇の中に横たわりて』(白水社)、5 1966

William Styron, *Lie down in Darkness*(The Bobbs-Merril Company, 1951) の邦訳。題辞として *Hydriotaphia* 第5章の抜粋を掲げる。書名も同じ抜粋箇所から採られた。

- 30 ウォルター・ペイター著堀大司訳『ガストン・ド・ラトゥール』(新樹社)、191, 236 1966

Walter Pater, *Gaston de Latour: An Unfinished Romance*(Macmillan and Co., Ltd., 1896) の邦訳。

- 31 川崎寿彦著『ダンの世界』(研究社出版)、1, 51, 69, 123-31, 137, 166, 168, 171 1967

- 32 ハーバート・リード著田中幸穂訳『散文論』(みすず書房)、113-15, 149, 324 1967

Herbert Read, *English Prose Style*(G. Bell & Sons. Ltd., 1952) の邦訳。原著初版は1928年刊行。邦訳旧版は1958年刊行。

- 33 ルネ・ウェレック、オースティン・ウォーレン著太田三郎訳『文学の理論』(筑摩書房)、168, 169, 214, 216 1967
- René Wellek and Austin Warren, *Theory of Literature* (Harcourt Brace and Co. Inc., 1956) の邦訳。原著初版は1946年刊行。邦訳旧版の初版は1953年刊行。
- 34 矢本貞幹著『イギリス文学思想史』(研究社出版)、43 1968
- 35 福原麟太郎著『福原麟太郎著作集 4 評傳チャールズ・ラム』(研究社出版)、217, 239 1968
- 元版は『チャールズ・ラム傳』(垂水書房、1963)。
- 36 チャールズ・シンガー著伊東俊太郎・木村陽二郎・平田寛訳『科学思想のあゆみ』(岩波書店)、287 1968
- Charles Singer, *A Short History of Scientific Ideas to 1900* (Oxford University Press, 1962) の邦訳。
- 37 島田謹二「堀大司氏のサー・トマス・ブラウン研究」、「比較文学研究第15号」(東京大学比較文学会)、199-205 1969
- 堀大司教授追悼特集の一編。島田氏は、「比較文学研究第9号」所収の「堀大司教授のこと」の中でも、堀氏のブラウン研究について言及している。
- 38 ギルバート・ハイエット著柳沼重剛訳『西洋文学における古典の伝統 上・下』(筑摩書房)、(下巻) 75, 77, 79, 81, 85, 90, 99, 248 1969
- Gilbert Highet, *The Classical Tradition* (Curtis Brown Ltd., 1949) の邦訳。ブラウンとの関連で、William Osler の記述も含む(247-8)。Osler については81、116参照。
- 39 パオロ・ロッシ著前田達郎訳『魔術から科学へ』(サイマル出版会)、18 (「まえがき」)、12, 40, 93 1970
- Paolo Rossi, *Francesco Bacone: Dalla Magia alla Scienza* (Editori Laterza, 1957) の邦訳。
- 40 中野好夫「翻訳雑話」、『英文学夜ばなし』(新潮社)、122 1970

- 41 トマス・ブルフィンチ著大久保博訳『ギリシア・ローマ神話』(角川書店)、539 1970  
Thomas Bulfinch, *The Age of Fable* (1855) の邦訳。
- 42 E・R・クルツイウス著南大路振一・岸本通夫・中村善也共訳『ヨーロッパ文学とラテン中世』(みすず書房)、210, 469-71 1971  
Ernst Robert Curtius, *Europäische Literatur und lateinisches Mittelalter* (Francke, 1948) の邦訳。
- 43 アーサー・クレイバラー著河野徹・上島健吉・佐野雅彦訳『グロテスクの系譜——英文学的考察』(法政大学出版局)、4, 7, 10 1971  
Arthur Clayborough, *The Grottesque in English Literature* (Oxford University Press, 1965) の邦訳。
- 44 K・K・ルスベン著新倉俊一訳『コンシート』(研究社出版)、11, 12 1971  
K. K. Ruthven, *The Conceit* (Methuen & Co. Ltd., 1970) の邦訳。
- 45 バージェン・エヴァンズ著原田敬一訳『ナンセンスの博物誌』(大和書房)、15, 114, 140, 198, 205 1971  
Bergen Evans, *The Natural History of Nonsense* (Alfred A. Knopf, 1958) の邦訳。
- 46 クリストファ・ヒル著福田良子訳『イギリス革命の思想的先駆者たち』(岩波書店)、254 1972  
Christopher Hill, *Intellectual Origins of The English Revolution* (Oxford University Press, 1965) の邦訳。
- 47 ジョン・D・ジャンプ著斎藤和明訳『バーレスク』(研究社出版)、71, 72, 73 1973  
John D. Jump, *Burlesque* (Methuen & Co. Ltd., 1972) の邦訳。ジェイムズ・ジョイス『ユリシーズ』第14挿話「太陽の牛」の文体模倣文集(パステイーシュ)の中でブラウンに該当する部分を含む。
- 48 川崎寿彦著『マーヴェルの庭』(研究社出版)、32, 39, 137, 149, 151, 284 1974
- 49 平井正穂編『ミルトンとその時代』(研究社出版)、250, 254-55 1974



- 50 ラルフ・カークパトリック編荒木雄三訳『J. S. バッハ ゴールトベルク変奏曲』 1974  
(全音楽譜出版社)、28  
  
Ralph Kirkpatrick (ed.), *J. S. Bach : Goldberg Variations* (G. Schirmer, Inc., 1938) の邦訳。題辞として、*Religio Medici* 第2部第9節の抜粋を掲げる。
- 51 斎藤美州 「『医者 of 宗教』序説」、*西洋文学研究* (東京教育大学文学部紀要 103)、39-63 1975
- 52 淮陰生 「アイスキュロスと亀と漱石」、*「図書」* 1975年4月号 (岩波書店)、15 1975  
  
さまざまな状況証拠から、「淮陰生」は中野好夫氏の筆名と思われる。後に61に収録。
- 53 木村毅 「ランドアとブラウンと漱石」、*「図書」* 1975年8月号 (岩波書店)、54-55 1975  
  
52を受けて書かれたもの。61参照。なお、木村氏は「英語青年 特集：夏目漱石と英文学」(1966年7月特別号)所収の「『三四郎』の中の英文学」においてもブラウンに言及している。
- 54 アーサー・O・ラヴジョイ著内藤健二訳『存在の大いなる連鎖』(晶文社)、90 1975  
  
Arthur O. Lovejoy, *The Great Chain of Being* (Harvard University Press, 1970) の邦訳。原著の初版は1936年。
- 55 サミュエル・テイラー・コウルリッジ著桂田利吉訳『文学評伝』、230 1976  
  
Samuel Taylor Coleridge, *Biographia Literaria, or Biographical Sketches of My Literary Life and Opinions* (1817) の邦訳。
- 56 小澤康彦 「夢の技法——Sir Thomas Browne と Charles Lamb」、*静岡大学人文学部人文論集* 28、51-67 1977
- 57 澁澤龍彦 「時間のパラドクスについて」、『思考の紋章学』(河出書房新社) 1977  
  
*Hydriotaphia* の一節の邦訳を含む。

- 58 スーザン・ヒル著高儀進訳『奇妙な出会い』(角川書店)、59, 152, 158, 193, 199-200, 202-4, 208-9, 214, 218, 231, 266, 301 1977

Susan Hill, *Strange Meeting* (Richard Scott Simon Ltd., 1971)の邦訳。*Religio Medici* 及び *Hydriotaphia* からの引用を含む。主人公の友人がブラウンの愛読者という設定。

- 59 斎藤美州「Thomas Browne, *Hydriotaphia* (古典新講 I)」、「英語教育」4月号(大修館書店)、44-5 1978

- 60 川崎寿彦著『鏡のマニエリスム——ルネサンス想像力の側面』(研究社出版)、88 1978

- 61 淮陰生「アイスキュロスと亀と漱石」、『一月一話 読書こぼればなし』(岩波書店)、138-39, 224 1978

52、53参照。同書「補注一束」で53への言及がある。

- 62 J・B・プリーストリー著小池滋・君島邦守訳『英国のユーモア』(秀文インターナショナル)、61 1978

J. B. Priestly, *English Humour* (Heinemann, 1976) の邦訳。

- 63 Takahashi, Genji, "Sir Thomas Browne as a Christian——A Compendious Approach to *Christian Morals*——"、「桜美林大学・桜美林短期大学紀要 英語英米文学研究 19」、167-83 1979

- 64 新井明著『ミルトンの世界——叙事詩性の軌跡』(研究社出版)、46, 61, 85, 137, 155, 170, 198, 245, 246, 266 1980

- 65 ノースロップ・フライ著海老根宏・中村健二・出淵博・山内久明訳『批評の解剖』(法政大学出版局)、198, 372, 377, 421, 437 1980

Northrop Frye, *Anatomy of Criticism: Four Essays* (Princeton University Press, 1957) の邦訳。

- 66 バジル・ウィリー著樋口欣三・佐藤全弘訳『イギリス精神の源流——モラリストの系譜』(創元社)、152, 213-23 1980

Basil Willey, *The English Moralists* (Chatto & Windus, 1964)の邦訳。「第12章 モラリストとしてのサー・トマス・ブラウンに関する覚書」を含む。

- 67 ジェイムズ・ボズウェル著中野好之訳『サミュエル・ジョンソン伝 1』(みすず書房)、xxi, 158, 225, 241 1981
- James Boswell, *The Life of Samuel Johnson, LL.D.* (1791) の邦訳。同書の邦訳としては、神吉三郎訳『サミュエル・ジョンソン伝』上中下(岩波書店、1941-48)があるが、これは抄訳であり、ブラウンの名は出てこない。69, 70, 80参照。
- 68 荒俣宏著『理科系の文学誌』(工作舎)、198-200, 401 1981
- 87参照。
- 69 サミュエル・ジョンソン著藤井哲訳「[サー・トマス・ブラウン伝](訳——その1)」、[活水論文集(英米文学・英語学編)25]、119-40 1982
- Samuel Johnson, “The Life of Sir Thomas Browne” の邦訳。*Christian Morals* の再版(1756)の際に巻頭に付された。80参照。
- 70 ジェイムズ・ボズウェル著中野好之訳『サミュエル・ジョンソン伝 2』(みすず書房)、487 1981
- 67参照。
- 71 ウィリアム・エンプソン著柴田稔彦訳『牧歌の諸変奏』(研究社出版)、84 1982
- William Empson, *Some Versions of Pastoral* (Chatto & Windus, 1935) の邦訳。但し、訳者がどの版を使用したかは不明。
- 72 ヘンリ・ブラッドリ著寺澤芳雄訳『英語発達小史』(岩波書店)、247 1982
- Henry Bradley, *The Making of English*, revised by Simeon Potter (Macmillan & Co. Ltd., 1968) の邦訳。原著初版は1904年刊行。
- 73 ホルヘ・ルイス・ボルヘス著中村健二訳『異端審問』(晶文社)、36, 144, 178, 289 1982
- Jorge Luis Borges, *Other Inquisitions, 1937-1952*, tr., Ruth L. C. Simms (The University of Texas Press, 1964) の邦訳。
- 74 山本俊樹「十七世紀英国における「創造」と「救済」——サー・トマス・ブラウンの場合」、[成蹊法学]20号、1-17 1983

- 75 姉川邦彦「17世紀の英語語彙の拡張について——Sir Thomas Browne: Religio Medici を例として」、「Paulownia review 2」(大東文化大学大学院英文学研究会)、34-43 1983
- 76 小川和夫「平田禿木から福原麟太郎への手紙(三)——竹友藻風のこと——」、「學鏡」第80巻4号(丸善)、32-35 1983

小川氏によれば、小沢準作氏は「京都帝大英文科に学び卒業論文にサー・トマス・ブラウンの作『医師の宗教』を選んで」いた由。小沢氏は24が収録されている『世界人生論全集第4巻』(筑摩書房)で、アイザック・ウォルトンの『釣魚大全』を訳している。

- 77 川崎寿彦著『庭のイングランド』(名古屋大学出版会)、49, 56, 169, 326 1983
- 78 由良君美著『椿説泰西浪漫派文学談義』(青土社)、26 1983
- 79 永嶋大典著『OEDを読む——『オックスフォード英語大辞典』案内』(大修館書店)、93-94 1983
- 80 サミュエル・ジョンソン著藤井哲訳「[サー・トマス・ブラウン伝](訳——その2)」、「活水論文集(英米文学・英語学編)26」、153-77 1983

69参照。

- 81 ウィリアム・オスラー著日野原重明・仁木久恵訳「トマス・ブラウン卿」その他、『平静の心——オスラー博士講演集』(医学書院)、vi, 20, 28, 54, 60, 120, 136, 166, 198-99, 202, 256, 267, 357-58, 361, 373-412, 491, 494, 509, 510, 512 1983

William Osler, *Aequanimitas* (MacGraw-Hill Book Co., 1996)、及び、*Selected Writings of Sir William Osler* (Oxford University Press, 1951) より、訳者が編纂の上、邦訳したもの。オスラーはブラウンから大きな影響を受けた。38, 116参照。

- 82 ノースロップ・フライ著駒沢大学N・フライ研究会訳『同一性の寓話』(法政大学出版局)、238 1983

Northrop Frye, *Fables of Identity: Studies in Poetic Mythology* (Harcourt, Brace Tovanovich, 1963) の邦訳。

- 83 フレデリック・アーツ著望月雄二訳『ルネサンスからロマン主義へ——美術・文学・音楽の様式の流れ』（音楽之友社）、135 1983

Frederick B. Artz, *From the Renaissance to Romanticism: Trends in Style in Art, Literature, and Music, 1300-1830* (The University of Chicago Press, 1962) の邦訳。

- 84 秋山嘉「失速する成熟——『レリギオ・メディキ』冒頭をめぐる読みと時間」、1984  
「東京大学教養学部外国語科研究紀要」第31巻3号、23-47

- 85 由良君美著『みみずく古本市』（青土社）、149 1984

- 86 水田洋「本を愛した外科医」、『知の商人——近代ヨーロッパ思想史の周辺』（筑摩書房）、232-38 1985

ブラウンの全集を編集し、書誌を作成したジェフリー・ケインズ (Geoffrey Keynes) の紹介。ジェフリーは有名な経済学者ジョン・メイナード・ケインズの弟。

- 87 テリー・イーグルトン著大橋洋一訳『文学とは何か』（岩波書店）、3 1985

Terry Eagleton, *Literary Theory: An Introduction* (Basil Blackwell, 1984) の邦訳。

- 88 ラフカディオ・ハーン著立野裕訳「サー・トマス・ブラウン」、『ラフカディオ・ハーン著作集第7巻』（恒文社）、69-81 1985

富山大学ヘルン(小泉八雲)文庫所蔵ラフカディオ・ハーン関係文献目録によれば、初出は小泉八雲著今東光訳『文学入門』（金星堂、1932）。

- 89 秋山嘉「『部分／役割』としての書き手——サー・トマス・ブラウンの『レリギオ・メディキ』を読むための予備作業——」、「英語英米文学第26集」（中央大学英米文学会）、23-51 1986

- 90 高橋康也著『エクスタシーの系譜』（筑摩書房）、30, 57, 78 1986

旧版はあぼろん社より1966年刊行。

- 91 坂下昇著『オカルト』（講談社）、7, 24-25, 155, 157, 207 1986

68参照。

- 92 グレアム・グリーン著高儀進訳『ロチェスター卿の猿——十七世紀英国の放蕩詩人の生涯』(中央公論社)、288, 319 1986

Graham Greene, *Lord Rochester's Monkey, being the Life of John Wilmot, Second Earl of Rochester* (Bodley Head, 1974) の邦訳。ブラウンから息子のエドワードに宛てた手紙の引用。

- 93 マージョリー・H・ニコルソン著高山宏訳『月世界への旅』(国書刊行会)、81, 165, 166, 240 1986

Marjorie Hope Nicolson, *Voyages to the Moon* (Macmillan, 1948) の邦訳。105参照。

- 94 ホルヘ・ルイス・ボルヘス著土岐恒二訳『永遠の歴史』(筑摩書房)、102 1986

Jorge Luis Borges, *Historia de la eternidad* (Emecé, 1953) の邦訳。

- 95 エドガー・ウィント著田中英道・藤田博・加藤雅之訳『ルネサンスの異教秘儀』(晶文社)、179, 221, 298, 313, 374, 382, 395 1986

Edgar Wind, *Pagan Mysteries in the Renaissance* (Faber & Faber, 1958) の邦訳。

- 96 中村禎里著『魔女と科学者 その他』(海鳴社)、20-22 1987

- 97 日夏耿之介「楚囚文學考」、『サバト恠異帖』(国書刊行会)、205 1987

初出は1927年1月「中央公論」第42巻1号。

- 98 ワイリー・サイファー著河村錠一郎訳『ルネサンス様式の四段階——1400年～1700年における文学・芸術の変貌』(河出書房新社)、145, 201 1987

Wylie Sypher, *Four Stages of Renaissance* (Doubleday & Company, Inc., 1955) の邦訳。邦訳旧版は1976年刊行。

- 99 ウェイン・シューメイカー著田口清一訳『ルネサンスのオカルト学』(平凡社)、156, 245, 357-60, 368, 369 1987

Wayne Shumaker, *The Occult Sciences in the Renaissance: A Study in Intellectual Patterns*, First Paperback Edition (University of California Press, 1979) の邦訳。原著初版は1972年刊行。

- 100 エリザベス・L・アイゼンステイン著別宮貞徳監訳『印刷革命』（みすず書房）、1987  
202-6, 293

Elizabeth L. Eisenstein, *The Printing Revolution in Early Modern Europe* (Cambridge University Press, 1983) の邦訳。

- 101 加藤憲明「ブラウンに見る現代性」、『作新学院女子短期大学紀要 12』、149-55 1988

- 102 秋山嘉「『忘却によって認識はつくられる』——サー・トマス・ブラウン『一般的謬説』論」、中央大学人文科学研究部編『イギリス・ルネサンスの諸相』（中央大学出版部）、359-404 1989

- 103 飯島周・青木純子編注『すばらしき書物の世界（*The Wonderful World of Books*）』（大学書林）、58 1989

Louis Shores, "How to Find Time to Read" 中の William Osler の記述に関連してブラウンの名が見える。81、115参照。

- 104 ジョン・バース著志村正雄訳『金曜日の本』（筑摩書房）、90, 104 1989

John Barth, *The Friday Book: Essays and Other Nonfiction* (G. P. Putnam's Sons, 1984) の邦訳。

- 105 マージョリー・H・ニコルソン著小黒和子訳『暗い山と栄光の山——無限性の美学の展開』（国書刊行会）、106, 107-8, 144, 145, 158, 165, 243, 322, 349, 482, 487 1989

Marjorie Hope Nicolson, *Mountain Gloom and Mountain Glory: The Development of the Aesthetics of the Infinite* (Norton, 1963) の邦訳。原著初版は Cornell University Press より1957年刊行。93参照。

- 106 キース・トマス著山内昶監訳『人間と自然界——近代イギリスにおける自然観の変遷』（法政大学出版局）、92, 99, 105, 110, 116, 189-90, 269, 346; (以下は原注のページ) 63, 64, 66, 68, 69, 86, 118 1989

Keith Thomas, *Man and the Natural World: Changing Attitudes in England 1500-1800* (Allen Lane, 1983) の邦訳。

- 107 サミュエル・ピープス著白田昭訳『サミュエル・ピープスの日記 第5巻 1664年』(国文社)、43 1989

Robert Latham and William Matthews(eds.), *The Diary of Samuel Pepys, vol.5 1664* (Unwin Hyman Limited, 1971) の邦訳。

- 108 ピーター・J・フレンチ著高橋誠訳『ジョン・ディー——エリザベス朝の魔術師』(平凡社)、236 1989

Peter J. French, *John Dee: The World of an Elizabethan Magus* (Routledge & Kegan Paul, 1972) の邦訳。

- 109 R・ホーイカース著藤井清久訳『宗教と近代科学の勃興』(すぐ書房)、83 1989

R. Hooykaas, *Religion and the Rise of Modern Science* (Scottish Academic Press, 1972) の邦訳。

- 110 有木宏二「ブラウン復活」、『ちくま』1990年8月号(筑摩書房)、56-7 1990

- 111 河野豊『『医師の宗教』——理性と信仰と——』、「早稲田大学大学院文学研究科紀要別冊第17集文学・芸術学編」、47-55 1990

- 112 澁澤龍彦「南方学の秘密」、『都心ノ病院ニテ幻覚ヲ見タルコト』(立風書房)、174-8 1990

2 参照。

- 113 S・K・ヘニンガー・Jr. 著山田耕士・吉村正和・正岡和恵・西垣学訳『天球の音楽——ピュタゴラス宇宙論とルネサンス詩学』(平凡社)、200-1, 218, 222, 238, 245, 258, 264, 269-70, 276, 279, 280, 290 1990

S. K. Heninger, Jr., *Touches of Sweet Harmony: Pythagorean Cosmology and Renaissance Poetics* (Huntington Library, 1974) の邦訳。

- 114 ハーバード・N・ウェザーレッド著中野里美訳『古代へのいざない——プリニウスの博物誌』(雄山閣出版)、2, 293 1990

Herbert Newton Wethered, *The Mind of the Ancient World: A Consideration of Pliny's Natural History* (Longmans Green and Co., 1937) の邦訳。題辞として *Pseudodoxia Epidemica* の一節を引用。



- 115 トマス・ブラウン著小池銈訳「壺葬論」、富士川義之編『脱線の箱』（筑摩書房）、1991  
131-188

*Hydriotaphia* のおそらく本邦初訳。

- 116 日野原重明著『医学する心——オスラー博士の生涯』（岩波書店）、14, 40, 50, 1991  
57, 111-12, 126, 127, 128, 135, 154, 164-66, 181, 234, 258, 262, 264-66

38, 81参照。

- 117 キース・ライトソン著中野忠訳『イギリス社会史 1580-1680』（リプロポート）、1991  
373, 28（訳注）

Keith Wrightson, *English Society 1580-1680* (Hutchinson, 1982) の邦訳。

- 118 クリストファー・ヒル著小野功生訳『十七世紀イギリスの宗教と政治』（法政大  
学出版局）、140, 247, 251, 37(原注) 1991

Christopher Hill, *The Collected Essays of Christopher Hill, Volume II: Religion and Politics in 17th Century England* (The Harvester Press, 1986) の邦訳。

- 119 河野豊「サー・トマス・ブラウンの時間意識」、「ほらいずん」第24号（早稲田大  
学英米文学研究会）、14-24 1992

- 120 古川隆夫著『ディキンソンの詩法の研究——重層構造を読む』（研究社出版）、1992  
203, 286, 300

- 121 E・M・W・ティリヤード著磯田光一・玉泉八州男・清水徹郎訳『エリザベス朝  
の世界像』（筑摩書房）、57, 76, 219, 220 1992

E. M. W. Tillyard, *The Elizabethan World Picture* (Chatto & Windus, 1943) の邦訳。本書の元版は、磯田光一訳『エリザベス時代の世界像』（研究社出版、1963）。

- 122 ジョーゼフ・ニーダム著井上英明訳『理解の鑄型——東西の思想経験』(法政大学出版局)、95-97, 100-1, 124, 150, 153-54, 156, 161, 260, 261, 276-77, 285, 287, 339, 361, 388, 456 1992

Joseph Needham, *Moulds of Understanding: A Pattern of Natural Philosophy* (George Allen & Unwin Ltd., 1976) の邦訳。ニーダムは別の自著の書名にブラウンの言葉を使っている。*The Great Amphibium: Four Lectures on the Position of Religion in a World Dominated by Science* (Student Christian Movement Press, 1931) がそれである。

- 123 マリオ・プラッツ著若桑みどり・森田義之・白崎容子・伊藤博明・上村清雄訳『官能の庭』(ありな書房)、263-72, 274-84, 287 1992

Mario Praz, *Il Giardino dei Sensi: Studi sul manierismo e il barocco* (Arnoldo Mondadori Editore, 1975) の邦訳。

- 124 Richard Catalano, "John Donne's Physician and Sir Thomas Browne—Social and Spiritual Healing", 「英米文学研究 29」(梅光女学院大学英米文学会)、125-31 1993

- 125 マーガレット・ドラブル著奥原宇・丹羽隆子訳『風景のイギリス文学』(研究社出版)、115, 118 1993

Margaret Drabble, *A Writer's Britain: Landscape in Literature* (Thames and Hudson, 1979) の邦訳。

- 126 キース・トマス著荒木正純訳『宗教と魔術の衰退 上・下』(法政大学出版局)、169, 181, 276, 364, 369, 425, 511, 525, 182 (原注) 1993

Keith Thomas, *Religion and the Decline of Magic: Studies in Popular Beliefs in Sixteenth and Seventeenth-Century England* (Penguin Books, 1985) の邦訳。原著の初版は Weidenfeld & Nicolson より1971年刊行。

- 127 サー・トマス・ブラウン著生田省悟・宮本正秀訳「ハイドリオタフィア (その一)」, 「金沢大学教養部論集・人文科学篇」第31巻第2号、61-88 1994

*Hydriotaphia* の邦訳。後に139に収録。

- 128 サー・トマス・ブラウン著生田省悟・宮本正秀訳「ハイドリオタフィア (その二)」, 「金沢大学教養部論集・人文科学篇」第32巻第1号、13-29 1994

*Hydriotaphia* の邦訳。後に139に収録。

- 129 河野豊「サー・トマス・ブラウンと「庭」」、*「英文学」*第70号（早稲田大学英文学会）、91-100 1994
- 130 ジョージ・ギッシング著小池滋訳『南イタリア周遊記』（岩波書店）、11、187 1994  
 George Gissing, *By the Ionian Sea: Notes of a Ramble in Southern Italy* (Chapman & Hall, 1901) の邦訳。旧版は『ギッシング選集』第4巻（秀文インターナショナル、1988）所収。訳者解説によると、本邦初訳は、佐々木理訳『イオニア海のほとり』（新月社、1947）。
- 131 サー・トマス・ブラウン著生田省悟・宮本正秀訳「医師の信仰（その一）」、「*金沢大学教養部論集・人文科学篇*」第32巻第2号、37-68 1995  
*Religio Medici* の邦訳。後に139に収録。
- 132 サー・トマス・ブラウン著生田省悟・宮本正秀訳「医師の信仰（その二）」、「*金沢大学教養部論集・人文科学篇*」第33巻第1号、67-95 1995  
*Religio Medici* の邦訳。後に139に収録。
- 133 荒俣宏著『空想文学千一夜——いつか魔法のとけるまで』（工作舎）、614-16 1995
- 134 サー・トマス・ブラウン著生田省悟・宮本正秀訳「医師の信仰（その三）」、「*金沢大学教養部論集・人文科学篇*」第33巻第2号、43-67 1996  
*Religio Medici* の邦訳。後に139に収録。
- 135 小田原克行「“Sir Thomas Browne” 試論」、「*大阪市立大学 人文研究*」第48巻11分冊、73-85 1996
- 136 河野豊「ノリッジ訪問記」、「*別府大学アジア歴史文化研究所報*」第14号、23-30 1997  
 ノリッジのセント・ピーター・マンクロフト教会内にあるブラウンの墓碑銘及び同教会のそばに建っているブラウンの銅像の写真を掲載。
- 137 クリストファー・ヒル著小野功生・円月勝博訳『十七世紀イギリスの急進主義と文学』（法政大学出版局）、131 1997  
 Christopher Hill, *A Nation of Change and Novelty: Radical Politics, Religion and Literature in Seventeenth Century England* (Routledge, 1990) の邦訳。

- 138 アンガス・フレッチャー著伊藤誓訳『思考の図像学——文学・表象・イメージ』 1997  
(法政大学出版局)、32, 210

Angus Fletcher, *Colors of the Mind: Conjectures on Thinking in Literature* (Harvard University Press, 1991) の邦訳。

- 139 サー・トマス・ブラウン著生田省悟・宮本正秀訳『医師の信仰・壺葬論』(松柏 1998  
社)

*Religio Medici* と *Hydriotaphia* の邦訳。127-28, 131-2, 134参照。

- 140 河野豊「サー・トマス・ブラウンと「夢」」、『英語英米文学論叢』第30号(別府 1998  
大学英語英文学会)、1-14

- 141 フレッド・ハプグッド著鶴岡雄二訳『マサチューセッツ工科大学』(新潮社)、76 1998

Fred Hapgood, *Up The Infinite Corridor: MIT and the Technical Imagination* (Addison-Wesley Publishing, 1992) の邦訳(新潮文庫)。元版は新潮社より1995年刊行。

## 6 付記

以上の他にいくつかブラウンの名が見えるものがある。例えば、エドガー・アラン・ポーの短編「モルグ街の殺人」の題辞には、『壺葬論』の一節が掲げられているし、ハーマン・メルヴィルの『白鯨』の中の記述(*Pseudodoxia Epidemica* からのもの)はよく知られている。

翻訳書の訳注などで、訳者の思い違いによる些細な誤りや誤植がいくつか見られたが、今回その種の指摘はしていない。いずれ、稿を改めて書きたいと思う。

なお、ブラウンに関する研究論文については以下の本を参考にさせて頂いた。

安藤勝編『20世紀文献要覧大系 3 外国文学研究文献要覧 I <英米文学> 1965~1974』(日外アソシエーツ、1977)

安藤勝編『20世紀文献要覧大系 18 英米文学研究文献要覧 1975~1984』(日外アソシエーツ、1987)

安藤勝編『20世紀文献要覧大系 19 英米文学研究文献要覧 1985~1989』(日外アソシエーツ、1991)

安藤勝編『20世紀文献要覧大系 23 英米文学研究文献要覧 1945~1964』(日外アソシエーツ、1994)

安藤勝編『20世紀文献要覧大系 29 英米文学研究文献要覧 1990~1994』(日外アソシエーツ、1996)

また、堀大司氏の著作に関しては、次のものを参照させて頂いた。

井村君江編「堀大司教授著作年表」、「比較文学研究」第9号（東京大学比較文学会、1965）

以上、記して深く感謝する次第である。